

# 若者たちの進路とホンネ

池新田高校進路課長の松永行弘教諭の話と  
生徒へのアンケートから、若者が転出する理由を探る



松永行弘教諭  
池新田高校進路課長

## 愛郷心のある子が多く 地元に残る傾向だが 進学者は市外で就職も多い

地方で続く若者の流出。本市の実態を探るため、池新田高校の進路状況を調査しました。

昨年度、同校を卒業した卒業生は140人。そのうち76人が就職し、地元から通勤可能な圏内（小笠・掛川地区）へは、卒業生の約3分の1にあたる56人が就職しました。進学者にあっては、自宅から通学できる中東遠地域へ6人、静岡市や浜松市へ32人が進学しています。

松永行弘教諭は「本校の生徒は地元愛が強く、地元に残る生徒が多いです。就職者の大半は生活拠点を地元におく傾向にあります。進学となると近隣に学校が

少ないため、地元を離れなくてはなりません。約半数は地元から通学していると思います」と話します。市の広報担当が、本年度の3年生132人に実施したアンケートの問1でも、全体の67%に当たる88人の生徒が卒業後は「地元に残る」と回答しており、地元志向が強いことが伺えます。では、なぜ若者の転出が多いのでしょうか。松永教

諭は「進学する生徒の中には、働く場所にこだわりを持っていない生徒も多く、首都圏で就職する者もいれば、進学先周辺で就職する者もいる。それも要因の一つではないか」といいます。また、アンケート問3の「将来、地元で暮らしたいと思えますか」という質問に対し、全体の46%に当たる61人が「思わない」と回答しています。問1の質問

で88人が地元に残ると回答したのに対し、「将来、地元で暮らしたい」と考えている生徒は17人も減っていました。その理由で多かったのが「都会に行きたい」、「交通が不便」、「楽しめる場所がない」という意見。地元志向が強い中でも、やはり都市部や利便性の高い生活を求め、地元を離れて暮らしたいという意志があることが分かりました。

### ■平成30年度の進路状況

	人数	割合
進学	63	45%
就職	76	54.3%
その他	1	0.7%
計	140	-

### ■進学先の内訳

	人数	割合
中東遠地域	6	9.5%
静岡・浜松	32	50.8%
県外	25	39.7%
計	63	-

### ■就職先の内訳

	人数	割合
小笠・掛川管内	56	75%
県内（管内以外）	18	23.7%
県外	2	1.3%
計	76	-

### ■過去6年間に市内企業へ就職した生徒数

	年度					
	H25	H26	H27	H28	H29	H30
	21	26	16	15	25	17

(参考資料：令和元年度「航路燈」/池新田高校作成)